

JARL

香川クラブ報

№. 233 昭和62年12月15日



社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

忘年会のご案内

今年もいよいよ押し詰まりあと半月となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

さて、クラブ恒例の忘年会を例によって下記のとおり開催いたしますので御案内申し上げますとともに、多くの方々の御参加をお待ちいたしております。

記

日 時 昭和62年12月30日(水) 午後6時から
場 所 とんかつ赤松 Ⅷ 31-8045
(瓦町から北方へ、フェリー通り200m)
会 費 6,000円程度
申込先 庶務担当 JH5LYW 三好まで [REDACTED]
締 切 12月27日まで

////////////////////////////////////
J A 5 A A 局 Q S Y

拝啓 秋冷の候 ご清栄の段お喜び申し上げます
日頃は公私共に何かとお世話になり誠に有難うございます

さて 私共
今般 下記に転居いたしましたので取敢えずご通知かたがたご挨拶申し上げます
す 当地へお越しの節は是非お立寄り下さい 敬 具
昭和62年11月15日

〒 770 徳島市沖浜町 [REDACTED]

久 米 正 雄
(香川クラブ御一同に何分よろしくお伝え下さい-----との御伝言です)

////////////////////////////////////
今年もこの号でおしまいです。みなさん、この年はいかがだったでしょうか。来年は瀬戸大橋博覧会・大橋開通と四国われらが香川にとって、大きな転換期となる年です。そしてJARL第30回通常総会がトリプル香川で開かれます。

JARL会員になって、この総会に参加しましょう。また、特別記念局の運営に協力しましょう。

それでは、よいお年をお迎えください。 昭和62年よ さようなら-----

総理からの招待状

J A 5 A H M 天野 英弘

去る7月20日、中曽根内閣総理大臣主催による「芸術文化に活躍された人びととの懇親のつどい」が総理官邸の中庭で催されました。

人間国宝をはじめ各界の第一人者、また、今をときめく人びとなど約1500人が出席。図らずも、私もその中の一人として文化振興の分野で総理より招待を受け、XYL (JA5CBF) 同伴で出席しました。

総理は出席者を前に、「今日ここにお集まりの皆さんに梅雨までが会いたいと言って戻って来ました。」とユーモアを交えながら、「マスメディアが発達している現代社会で、政治が与えることは少なく、迷惑をかけることの方が多い。政治は短く、芸術は永しだ。しょせん政治は芸術文化に奉仕するためにあると考えており、入場税引き下げや外国との交流の機会を増やすなど皆さんに奉仕したい。」と歓迎のことばを述べました。

これに対し、被招待者を代表して建築家の黒川紀章氏が、「人生・国家の目標は豊かな文化を作ることだ。行政・政治はもっと文化的になる必要がある。そのためにも今の文化庁を文化省に格上げしてほしい。」とあいさつ。

これを受けて乾杯の音頭をとった塩川文部大臣は、「皆さんの結集した力で文化省創設に向けて努力したい。また予算も増やしたい。」と答えました。

中庭では各所に模擬店が開かれ、各人が好みのごちそうを頂きながら歓談の輪ができ、また、いかにも芸術文化の分野におけるパーティーらしくタレントなどの姿もあちこちで見られ、和やかな中にも華やかさのある風景でした。

パーティーも終わりに近づき、訪問の記念にとカメラを構えたところ、官邸の方が、「せっかく官邸へ来たのだから、官邸らしいところで写真を写しなさい。」といわれて、官邸のシンボルである『大将のいす』の前へ案内して下さり、建物の説明を受け、記念写真をとってくれました。ふだんはブラウン管とか活字でしかお目にかかれないような方がたに直接会うことができ、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

また出席者には総理から記念品として、本願寺に伝来される室町時代初期の「蓬萊文様白銅鏡」から採った図柄で、千歳の松と海辺の波に鶴亀の遊ぶ目出たい蓬萊山の有様を現わした、造幣局特製の青銅に金メッキした古鏡文鎮を頂き、その重さと感激、さらには心地よい疲労感を休いっばいに感じながら帰途につきました。

お 知 ら せ

JH5ECK松野誠寛氏より下記のとおり依頼がありました。当クラブとしてもJARL通常総会や瀬戸大橋博'88特別記念局運用など相互協力の観点から参加することにしました。クラブ員の皆様も時間の都合がつく限り運用等の協力をお願いします。

『第1回高松冬のまつり』アマチュア無線記念移動局開設企画書

拝啓 貴会ますます御活躍のことと拝察いたします。日頃、アマチュア無線精神高揚のために、QSOするOM各局のアクティビティに深い造詣の念を、尊敬の眼差しで感じております。

表題の通り、高松において「第1回高松冬のまつり」が高松栗林LC、高松市の主管・後援で計画実施されることになり、既に実行委員会（委員長：脇信男 高松市長）が数回開催されており、タイムスケジュールも完成しております。

『しあわせありがとう』をコンセプトとして、高松栗林ライオンズクラブが創立25周年記念行事として、子供たちのために光と星と愛と雪をプレゼントするイベントです。

ここにおいて、我々HAM仲間が全国HAM仲間の先頭に立って、子供たちに夢を与えるイベントを全国へ、世界へ少しでも伝えられることが出来ればと思い、「記念移動局」を会場内に特設する計画をしております。

全国へはKSB瀬戸内海放送を通じて放映されますが、HAMはHAM仲間でのまつりを全国へQSOしませんか。ご協力をお願いします。 敬具

高松栗林LC 松野 誠寛 (JH5ECK)

記

日 時：昭和62年12月19日(土)～25日(金) 18:00～21:00ぐらいの間

場 所：高松中央公園内特設会場（無線局専用プレハブを予定）

運用局：JA5RL/5（予定）

運用帯：3.5MHz 7MHz 21MHz 144MHz 430MHz

QSL：記念カード発行／第30回JARL通常総会の案内を明記

予 算：総額35万円（実行委員会負担）

1.9~28MHz

JARL EXPRESS 11月15日号付録

アマチュアバンド使用区分を改正

JARL周波数委員会では、1.9~430MHzの各アマチュアバンド使用区分の見直しについて、理事会から諮問されていましたが、同委員会からこのほど1.9~28MHzの各バンドのものについて答申がありました。

この答申をうけて、10月10日、11日の両日にわたって開催された第303回理事会において審議、承認されました。答申の内容は、次のとおりです。

なお、18MHz及び24MHzバンドについては、将来これらのバンドが解放された場合を想定したものです。

I. 見直しの基本方針

1.9MHz~28MHzのアマチュアバンドの使用区分の見直しについては、次のような基本方針で対処することとした。

- HFバンドのバンドプランは、IARU第1地域においては、従来から制定されていたが、第2地域においては1986年10月、又、第3地域においては1985年11月にそれぞれ制定されているので、これらのバンドプランとの整合を図るものとする。
- 使用区分は、できるだけ簡潔なものとし、アマチュア局が理解して守りやすいものに整理する。
- 使用区分は、電波の型式の新表示方法との関連を考慮して、「CW (電信)」、「AM/SSB (電話)」、「FM (電話)」、「データ」、「画像」、「衛星」及び「レピータ」に分類し、区分する。
- 振幅変調系の電波と周波数変調系の電波は、併用させないものとする。
- 音声等による交信を併用する画像及びデータ通信は、電話の区分内において行うことができるものとする。
- 28MHzバンドのFM電波の占有周波数帯幅は、周波数の有効利用を考慮して狭帯域化を図るものとする。

II. 改正の内容

1. 使用区分の表示について

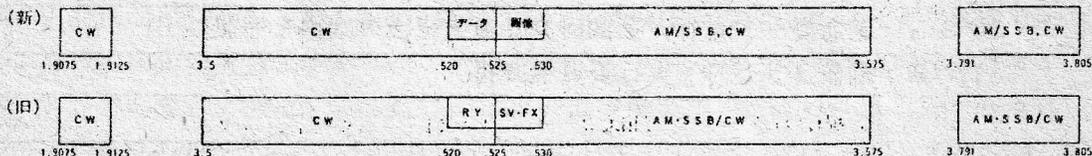
現行の使用区分は電波の型式によって表示していたが、見直し案においては、電波の型式の新表示方法との関連を考慮して、アマチュア局の電波を次のように伝送情報等によって表示することとした。

- 搬送波をモールス符号により断続した電波は、「CW」とする。
(例：A1電波)
- 搬送波を音声又はモールス符号により振幅変調した電波（音声等による交信を併用する画像又はデータ通信の電波を含む。）は「AM/SSB」、周波数変調のものについては「FM」とする。
(例：「AM/SSB」：A2、A3、A3J電波等、「FM」：F2、F3電波等)
- 搬送波をコンピュータ等によって処理した情報により変調した電波は、「データ」とする。
(例：F1(RTTY、パケット等)電波、F2(28MHz以上のバンドにおけるRTTY、パケット等)電波等)
- 搬送波を画像により変調した電波(ATV電波を除く)は、「画像」とする。
(例：3A4(FAX)、3F4(FAX)、3A9C(FAX)、F9(FAX)、3F5(SSTV)電波等)
- JARLの開設するアマチュア業務の中継用無線局に使用する電波は、「レピータ」とする。
- 人工衛星に開設するアマチュア局に使用する電波は、「衛星」とする。

2. 各バンドにおける改正点及び新旧対照の使用区分について

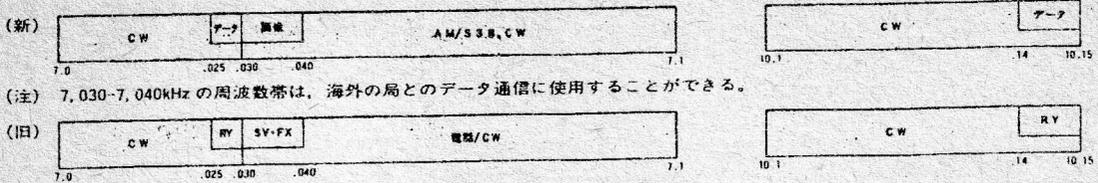
■ 1.9/3.5/3.8MHzバンド

1.9MHz~3.8MHzバンド：現行どおり。



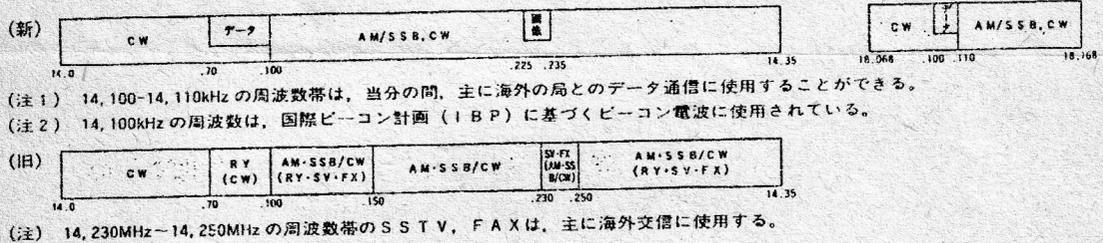
■ 7/10MHz バンド

7MHzバンド：7,030-7,040kHzの周波数帯は、海外の局とのデータ通信に使用することができるように脚注に表示した。
 10MHzバンド：現行どおり。



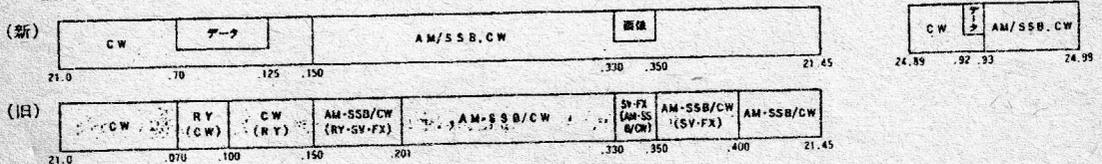
■ 14/18MHz バンド

14MHzバンド：①14,100-14,110kHzの周波数帯においては、14,103kHz前後で行われているデータ通信の運用実態を考慮して、当分の間、主に海外の局とのデータ通信に使用できるように脚注に表示した。
 ②国際ビーコン計画（IBP）の一環であるNCDXF（Northern California DX Foundation）のビーコン電波の周波数（14,100kHz）を脚注に表示した。
 18MHzバンド：IARU第1、第3地域のバンドプランに合せて、新たに制定した。



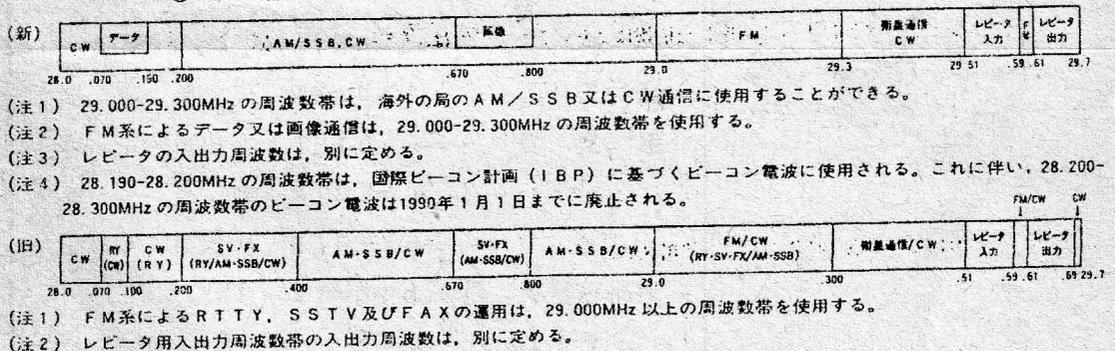
■ 21/24MHz バンド

21MHzバンド：IARU第3地域のバンドプランに合せて、21,070-21,125kHzの周波数帯を「データ」に区分した。
 24MHzバンド：IARU第1、第2地域のバンドプランに合せて、新たに制定した。



■ 28MHz バンド

- IARU第1、第2、第3地域のバンドプランを考慮して、28,070-28,150MHzの周波数帯を「データ」に区分した。
- IBPに基づくビーコン電波の周波数帯を脚注に表示した。



III. 実施時期

今回の改正案については、現行のものほとんど相違ないので、JARL NEWS等で周知の上、昭和63年4月1日から実施するものとする。

社団法人 日本アマチュア無線連盟

香川クラブ報

発行責任者 JA5AHM 天野英弘

編集者 JA5IQP 合田口正春

“ JA5MIK 新名等

“ JA5OIB 合田口キヨ子

連絡事務所 高松市中新町

(〒760) 天野英弘方

(TEL) 高松

“

郵便振替口座 徳島4-8758 JARL香川クラブ